

## 平成22年3月期 第2四半期決算短信

平成21年11月9日

上場会社名 株式会社 共立メンテナンス

上場取引所 東

コード番号 9616 URL <http://www.kyoritsugroup.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 充孝

問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長 (氏名) 上田 卓味

TEL 03-5295-7778

四半期報告書提出予定日 平成21年11月13日

配当支払開始予定日

平成21年12月1日

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成22年3月期第2四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	43,319	3.1	3,154	△9.2	2,584	△16.9	1,196	△18.4
21年3月期第2四半期	42,018	—	3,472	—	3,110	—	1,466	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第2四半期	83.30	66.52
21年3月期第2四半期	102.04	81.44

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第2四半期	126,674	29,975	23.5	2,070.87
21年3月期	125,793	28,911	22.8	1,995.59

(参考) 自己資本 22年3月期第2四半期 29,749百万円 21年3月期 28,669百万円

## 2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	19.00	—	19.00	38.00
22年3月期	—	19.00			
22年3月期 (予想)			—	19.00	38.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	89,210	8.4	5,890	10.1	4,690	4.0	2,370	11.1	164.97

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有

新規 一社 (社名 ) 除外 一社 (社名 (有)MBムートン・プロパティを営業者とする匿名組合)

詳細は、4ページ 定性的情報・財務諸表等 4. その他 をご覧ください。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

詳細は、4ページ 定性的情報・財務諸表等 4. その他 をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

詳細は、4ページ 定性的情報・財務諸表等 4. その他 をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第2四半期 15,125,582株 21年3月期 15,125,582株

② 期末自己株式数 22年3月期第2四半期 759,941株 21年3月期 758,951株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第2四半期 14,366,138株 21年3月期第2四半期 14,367,476株

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、4ページ 定性的情報・財務諸表等 3. 連結業績予想に関する定性的情報 をご覧ください。

## 定性的情報・財務諸表等

### 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、国内在庫調整の進展等により生産や輸出などの一部に改善の兆しが見えてきましたが、完全失業率が過去最高を記録するなど景気の先行きに不透明感があり、依然として厳しい状態が続いております。

当社グループの経営成績の特徴として、主力事業である寮事業において、毎期4月に学生寮に新寮生を迎えるため、入寮に伴う契約金売上がこれまで期初に計上されておりましたが、当期におきましては3月からの入寮を希望される新寮生が増加した結果、収益の集中が期初から期末へと一部シフトしております。また、ホテル事業につきましては、本格的なリゾートシーズンに加え、当期は秋の大型連休の効果を享受したリゾートホテル事業が好調に推移いたしました。これらの結果、売上高は前年同四半期より1,300百万円増加し、43,319百万円（前年同期比3.1%増）となり、営業利益は3,154百万円（前年同期比9.2%減）、経常利益は前期に先行して行った資金調達に係る費用の増加等により2,584百万円（前年同期比16.9%減）となりました。また、四半期純利益につきましては、投資有価証券評価損を計上したことにより1,196百万円（前年同期比18.4%減）となりました。なお、この業績につきましては、当初予想を下回るも概ね計画どおりに進捗しており、また、寮の来期期初稼働の改善に向けた施策を早々にスタートさせるなど、下期から来期に向けた対策が進行していることから通期業績予想に変更はありません。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

#### 【寮事業】

寮事業では、学生寮事業において新規提携大学様の増加等の効果もあり、稼働は概ね堅調に推移しておりますが、当期は4月に入寮される新寮生の一部が先行して3月に入寮されたことにより、前期に比べ契約金売上・収益が減少したかたちとなっております。なお、3月先行入寮の傾向は今後も増加するものと思われま。また社員寮事業につきましては、昨今の企業業績の悪化により、研修目的によるマンスリー契約等が減少いたしました。この結果、寮事業全体での9月末現在の稼働契約数は26,959名（前年同期134名減）となり、売上高19,619百万円（前年同期比0.5%減）、営業利益3,143百万円（前年同期比11.1%減）となりました。

#### 【ホテル事業】

ホテル事業では、当期に新規オープンしたドーミーイン（ビジネスホテル）5事業所（高崎・博多祇園・郡山・小樽・津）、リゾートホテル1事業所（高山）の計6事業所が売上増加に寄与し、既存ホテルにおいても、夏のリゾートシーズンの高稼働に加え、秋の大型連休も好調に推移した結果、新型インフルエンザの流行による出張・旅行のキャンセル及び企業の経費削減に伴う出張抑制等のマイナス要因を吸収し、売上高14,068百万円（前年同期比7.8%増）となりました。また、上記の新規オープンホテルに伴う開業準備費用等の発生もありましたが、販路の拡大及びコスト管理の徹底など、1事業所毎に着実に改善を進めた結果、営業利益386百万円（前年同期比14.2%増）と大幅な増益となりました。

#### 【総合ビルマネジメント事業】

総合ビルマネジメント事業では、前期に引き続き徹底した原価管理を推進しておりますが、企業業績の悪化による値引き要請や仕様変更等が、改善を上回るスピードで発生するなど非常に厳しい事業環境となりました。この結果、売上高5,653百万円（前年同期比2.3%減）、営業利益202百万円（前年同期比28.8%減）となりました。

#### 【フーズ事業】

フーズ事業では、個人消費の低迷や、大手チェーンによる値引き競争の激化など厳しい事業環境が継続しております。このような環境下、前期より引き続き変動原価管理を強化・徹底し、収益構造の見直しに取り組みましたが、外食店舗のリニューアル等の影響もあり、売上高2,229百万円（前年同期比13.4%減）、営業損失27百万円となりました。

#### 【デベロップメント事業】

デベロップメント事業では、原材料価格の低下などがあったものの、販売の低迷及び不動産価格の下落など依然として厳しい事業環境が継続しているなか、寮・ホテル等の開発への注力及びコスト管理の徹底を図っております。この結果、売上高4,073百万円（前年同期比3.0%増）、営業利益162百万円となりました。

## 【その他事業】

その他事業は、ウェルネスライフ事業（高齢者向け住宅の管理運営事業）・ライフサービス事業（通販・レンタル販売・保険代理店事業）・広告代理店事業・賃貸不動産仲介斡旋及び管理事業・総合人材サービス事業・融資事業及び事務代行業であります。これらの事業の合計は、売上高2,266百万円（前年同期比2.9%減）、営業利益97百万円（前年同期比11.7%減）となりました。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、126,674百万円となり、前連結会計年度末に比べ880百万円の増加となりました。主な要因は、新規事業所開発に係る固定資産が増加したことなどによるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における負債は、96,698百万円となり、前連結会計年度末に比べ183百万円の減少となりました。主な要因は、寮事業における前受金が減少したことなどによるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、29,975百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,063百万円の増加となりました。主な要因は、利益剰余金が増加したことなどによるものであります。

この結果、自己資本比率は23.5%となり、前連結会計年度末に比べ0.7ポイントの増加となりました。

（キャッシュ・フローの状況）

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、9,309百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,622百万円の減少となりました。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は2,869百万円（前年同期に比べ1,102百万円の支出増）の支出となりました。主な要因は、デベロップメント事業におけるたな卸資産の取得による支出及び寮事業における前受金の減少によるものであります。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は3,832百万円（前年同期に比べ528百万円の支出減）の支出となりました。主な要因は、寮事業及びホテル事業における有形固定資産の取得によるものであります。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は5,079百万円（前年同期に比べ9,083百万円の収入減）の収入となりました。主な要因は、短期借入金の増加によるものであります。

## 3. 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想につきましては、平成21年5月15日の決算発表時に公表いたしました業績予想に変更はありません。

## 4. その他

（1）期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

（有）MBムートン・プロパティを営業者とする匿名組合を清算したため連結の範囲から除外しております。

（2）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

### ① 簡便な会計処理

#### 1) たな卸資産の評価方法

当第2四半期連結会計期間末におけるたな卸資産の簿価切下げに関して、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

#### 2) 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関して、前連結会計年度末以降に経営環境等に著しい変化が生じておらず、かつ、一時差異等の発生状況に大幅な変動がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

### ② 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

#### 税金費用の計算

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

完成工事高及び完成工事原価の計上基準の変更

請負工事に係る収益の計上基準については、従来、工期が2年以上かつ請負金額20億円以上の長期大型工事については工事進行基準を、その他の工事については工事完成基準を適用しておりましたが、「工事契約に関する会計基準」（企業会計基準第15号 平成19年12月27日）及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」

（企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日）を第1四半期連結会計期間より適用し、第1四半期連結会計期間に着手した工事契約から、当第2四半期連結会計期間末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

これにより、当第2四半期連結累計期間の売上高は、103百万円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益は、それぞれ2百万円増加しております。

なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。

5. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	10,443	12,065
受取手形及び売掛金	2,896	2,896
販売用不動産	1,538	424
未成工事支出金	1,026	982
その他	4,412	5,530
貸倒引当金	△40	△44
流動資産合計	20,277	21,852
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	30,765	27,869
土地	25,943	25,896
その他（純額）	16,992	20,024
有形固定資産合計	73,701	73,790
無形固定資産	3,689	2,921
投資その他の資産		
投資有価証券	6,529	6,440
差入保証金	8,325	7,370
敷金	7,475	6,986
その他	6,712	6,535
貸倒引当金	△155	△154
投資その他の資産合計	28,887	27,179
固定資産合計	106,278	103,891
繰延資産	117	49
資産合計	126,674	125,793

(単位：百万円)

当第2四半期連結会計期間末  
(平成21年9月30日)

前連結会計年度末に係る  
要約連結貸借対照表  
(平成21年3月31日)

負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,060	3,028
短期借入金	26,549	17,497
未払法人税等	1,293	530
前受金	8,050	11,675
賞与引当金	553	910
役員賞与引当金	78	199
完成工事補償引当金	12	12
工事損失引当金	4	4
その他	5,039	7,758
流動負債合計	43,640	41,615
固定負債		
社債	16,030	14,400
長期借入金	29,407	33,055
退職給付引当金	1,217	1,168
役員退職慰労引当金	338	370
その他	6,065	6,272
固定負債合計	53,058	55,266
負債合計	96,698	96,882
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,136	5,136
資本剰余金	5,943	5,943
利益剰余金	20,919	19,995
自己株式	△1,469	△1,468
株主資本合計	30,529	29,607
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△780	△937
評価・換算差額等合計	△780	△937
少数株主持分	226	241
純資産合計	29,975	28,911
負債純資産合計	126,674	125,793

(2) 四半期連結損益計算書  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
売上高	42,018	43,319
売上原価	33,445	35,023
売上総利益	8,572	8,295
販売費及び一般管理費	5,100	5,141
営業利益	3,472	3,154
営業外収益		
受取利息	50	37
受取配当金	23	18
解約保証金収入	73	72
その他	51	46
営業外収益合計	198	175
営業外費用		
支払利息	414	570
その他	146	175
営業外費用合計	560	745
経常利益	3,110	2,584
特別利益		
保険解約返戻金	24	21
前期損益修正益	7	—
貸倒引当金戻入額	—	11
その他	5	5
特別利益合計	37	38
特別損失		
投資有価証券評価損	201	259
その他	145	20
特別損失合計	347	279
税金等調整前四半期純利益	2,800	2,342
法人税等	1,336	1,127
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△1	18
四半期純利益	1,466	1,196



## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	2,800	2,342
減価償却費	1,781	1,944
長期前払費用償却額	115	136
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△182	△356
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△65	△121
受取利息及び受取配当金	△74	△56
支払利息	414	570
有価証券評価損益 (△は益)	201	259
売上債権の増減額 (△は増加)	174	2
未収入金の増減額 (△は増加)	441	532
たな卸資産の増減額 (△は増加)	275	△1,084
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,221	△1,130
前受金の増減額 (△は減少)	△4,433	△3,640
未払消費税等の増減額 (△は減少)	—	△323
預り金の増減額 (△は減少)	△893	△930
預り保証金の増減額 (△は減少)	—	△210
その他	243	212
小計	△421	△1,854
利息及び配当金の受取額	70	42
利息の支払額	△405	△578
法人税等の還付額	5	42
法人税等の支払額	△1,014	△520
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,766	△2,869
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の取得による支出	△203	—
有価証券の売却による収入	219	—
有形固定資産の取得による支出	△3,750	△2,056
無形固定資産の取得による支出	—	△661
長期前払費用の取得による支出	—	△272
貸付けによる支出	△215	△292
貸付金の回収による収入	254	413
敷金及び保証金の差入による支出	△479	△1,504
敷金及び保証金の回収による収入	—	602
その他	△186	△61
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,360	△3,832

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△6,409	12,758
長期借入れによる収入	23,000	—
長期借入金の返済による支出	△3,144	△7,355
リース債務の返済による支出	△1,084	—
社債の発行による収入	2,980	2,422
社債の償還による支出	△880	△2,461
自己株式の取得による支出	—	△1
配当金の支払額	△286	△272
少数株主への配当金の支払額	△16	△11
少数株主への清算分配金の支払額	△16	—
その他	19	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	14,162	5,079
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	8,035	△1,622
現金及び現金同等物の期首残高	8,061	10,931
現金及び現金同等物の四半期末残高	16,096	9,309

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）

	寮事業 (百万円)	ホテル事業 (百万円)	総合ビル マネジメント 事業 (百万円)	フーズ事業 (百万円)	デベロップ メント事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高									
(1) 外部顧客 に対する 売上高	19,667	12,956	4,119	1,234	2,434	1,606	42,018	—	42,018
(2) セグメン ト間の内 部売上高 又は振替 高	49	89	1,666	1,340	1,518	727	5,391	(5,391)	—
計	19,716	13,045	5,785	2,574	3,952	2,334	47,409	(5,391)	42,018
営業利益又は 営業損失 (△)	3,534	338	284	26	△14	110	4,279	(807)	3,472

当第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）

	寮事業 (百万円)	ホテル事業 (百万円)	総合ビル マネジメント 事業 (百万円)	フーズ事業 (百万円)	デベロップ メント事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高									
(1) 外部顧客 に対する 売上高	19,557	14,006	3,891	1,018	3,365	1,479	43,319	—	43,319
(2) セグメン ト間の内 部売上高 又は振替 高	61	62	1,762	1,210	708	786	4,591	(4,591)	—
計	19,619	14,068	5,653	2,229	4,073	2,266	47,910	(4,591)	43,319
営業利益又は 営業損失 (△)	3,143	386	202	△27	162	97	3,964	(810)	3,154

(注) 会計方針の変更

(完成工事高及び完成工事原価の計上基準の変更)

四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より、「工事契約に関する会計基準」（企業会計基準第15号 平成19年12月27日）及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日）を適用しております。この変更により、従来の方法によった場合に比べて、デベロップメント事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は103百万円増加し、営業利益は2百万円増加しております。

[所在地別セグメント情報]

前第 2 四半期連結累計期間（自 平成20年 4 月 1 日 至 平成20年 9 月30日）及び当第 2 四半期連結累計期間（自 平成21年 4 月 1 日 至 平成21年 9 月30日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

[海外売上高]

前第 2 四半期連結累計期間（自 平成20年 4 月 1 日 至 平成20年 9 月30日）及び当第 2 四半期連結累計期間（自 平成21年 4 月 1 日 至 平成21年 9 月30日）

海外売上高がないため、該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。